

地域戦略策定における自然環境の調査について

1. 目的

- ・ 日野市域の自然環境の特徴を把握する
- ・ 生物多様性の保全・向上の取組みに向けた生物多様性の現状と課題を検討するに資する情報を得る

日野市には、丘陵地・台地・崖線斜面・低地の地形的特徴と、古くから続く人の生活（土地の利用）に応じて、多様な生き物が生育・生息する様々なタイプの自然環境があります。

生物多様性地域戦略の策定にあたっては、まずはそのような日野市域の自然環境の特徴を把握し、生物多様性の保全・向上の取組みに向けた、生物多様性の現状と課題を検討するために、自然環境の調査を行います。

特に、日野市域の生物多様性の保全上重要な地域や、生物多様性の存続を脅かすような事象について明らかにしておくことが重要です。

2. 調査の手順

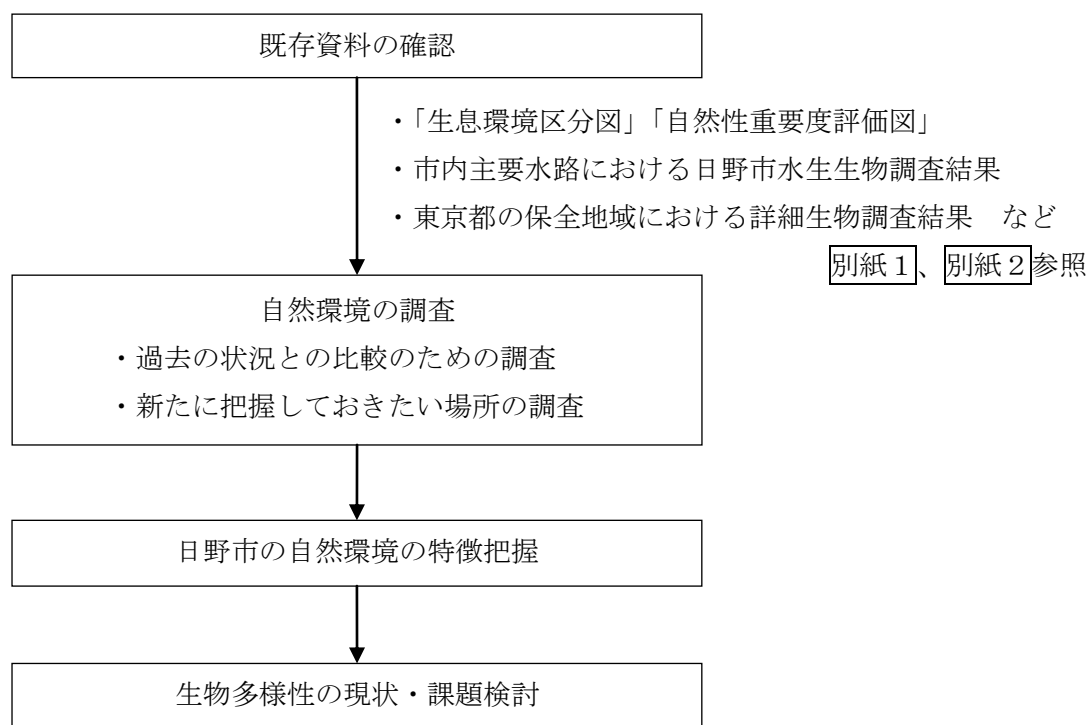


図 2－1 調査の手順

既存資料の確認では、日野市域の自然環境や生き物に関する資料を収集したうえで、生き物の確認時期や場所が明らかな資料を中心に、自然環境や生き物に関する情報の整理を進めており、主要なものとして以下の情報が得られています。

- ・「生息環境区分図」：生息する生き物の種類の特徴に応じて日野市域の環境を区分
- ・「自然性重要度評価図」：植生の自然度や希少種の数、生物種の多さに基づいて自然性の重要度を地図上で塗り分けたもの
- ・市内主要水路で継続的に実施されている水生生物調査の結果
- ・東京都の保全地域「東豊田緑地保全地域」「日野東光寺緑地保全地域」で 2013・2014 年に実施された生物多様性保全のための自然環境調査結果

自然環境の調査は、既存情報として得られたもののうち、特に「生息環境区分図」「自然性重要度評価図」作成のベースとなる 1999～2003 年に実施された調査結果について、十数年を経た現在の状況を再度確認し、環境変化の有無や変化をもたらした要因を比較検討します。

また、日野市における今後の生物多様性の保全・向上のために新たに状況を把握すべき場所についても調査を行う考えです。

3. 調査の内容

(1) 調査地の選定

調査地は、過去の状況との比較を行う地点として、「都市のエコロジカルネットワークⅡ」で実施された調査地点の中から、生息環境区分毎に主要な地点を選定することを基本とします（表3-1）。

また、新たに状況を把握すべき調査地として、今後市有地化することを検討している真堂が谷戸、および学校ビオトープや親水護岸が整備されている潤徳小学校ビオトープと向島親水路の2箇所を選定し、生き物の現状や整備の効果を把握する考えです。

黒川清流公園は東京都で実施された自然環境調査の結果を活用し、過去の状況と比較します。また、市内の水生生物については日野市水生生物調査の結果を活用します。

表3-1 過去の状況との比較を行う調査地の候補

生息環境区分	調査地点の候補	備考
1：斜面・常緑樹林	百草八幡神社	
2：斜面・丘陵の落葉樹林	斜面：黒川清流公園	東豊田緑地保全地域の調査資料で比較可能
	丘陵：都立七生公園	
3：低水敷の落葉樹林	多摩川河川敷	
4：果樹園・緑の多い住宅地	多摩平団地	
5：緑の少ない住宅地	－	質的变化少ないと考えられるため設定せず
6：畑・草地	東光寺上地区	
7：水田・低水敷	水田：新井の田んぼ	
	低水敷：多摩川河川敷	
8：解放水面	（多摩川の水面）	多摩川河川敷（低水敷草地）と併せて実施

表3-2 新たに状況を把握しておきたい調査地の候補

新たに把握しておきたい場所	備考
真堂が谷戸	丘陵に残された谷戸環境。市有地化を検討中。
潤徳小学校ビオトープと向島親水路	用水を活かした学校ビオトープ。環境教育に活用。

調査地点の候補を別紙3に示します。

(2) 調査の項目・方法・時期

調査は「都市のエコロジカルネットワークⅡ」で実施された調査の項目・方法・時期を踏襲しますが、過去に実施していない時期や項目についても網羅的に調査を行い、年間を通しての詳細な生き物情報の取得を図ります。

調査の項目・方法・時期

項目	調査方法	調査時期
植 物	任意踏査	3 回：春季、夏季、秋季
哺乳類	任意踏査（目視、フィールドサイン） 場所によって自動撮影カメラおよびライブトラップ	2 回：春季、 <u>秋季</u>
鳥 類	定点観察、任意踏査（目視、鳴声） ※調査地によってラインセンサス法	3 回： <u>春季（繁殖期）</u> 、 <u>秋季（渡り）</u> 、 <u>冬季（越冬期）</u>
爬虫類	任意踏査（目視）	2 回：春季、 <u>秋季</u>
両生類	任意踏査（目視、鳴き声）	3 回： <u>早春季</u> 、 <u>春季</u> 、 <u>秋季</u>
昆虫類	任意踏査 （見つけ採り、スウィーピング法、ビーティング法）	3 回： <u>春季</u> 、 <u>夏季</u> 、 <u>秋季</u>
クモ類	任意踏査 （見つけ採り、スウィーピング法、ビーティング法）	1 回： <u>秋季</u>

アンダーライン：「都市のエコロジカルネットワークⅡ」の調査で実施された項目及び時期

〈任意踏査〉

調査地の様々な環境を網羅するように歩きながら、確認された生き物の種類と場所を記録します。環境を代表する主要な種や希少種などではできる限り個体と生息・生育地の状況を写真撮影します。

〈フィールドサイン〉

主に哺乳類の糞や足跡など、野外に残る動物の活動の痕跡のことです。生き物の種類によって形や大きさなどに特徴があるため、そこに生息する生き物の種類を判別することができます。

〈自動撮影カメラ〉

赤外線センサーで動物個体を感知して自動的に写真や動画の撮影を行うデジタルカメラです。動物の通り道や水場付近など動物が集まる場所に設置し、主に哺乳類や鳥類を撮影します。

〈ライブトラップ〉

金属製箱型のわなにナッツ類など誘引用の餌を入れて野外に設置し、ネズミ類など小型哺乳類を生け捕りするトラップです。

〈スウィーピング法〉

草や枝先をなでるように捕虫網を振り、草や木の葉などにいる昆虫・クモ類を捕獲する方法です。

〈ビーティング法〉

枝先などを棒でたたき、落ちてくる昆虫・クモ類をネットなどで受け止めて捕獲する方法です。